

原 著

健康意識調査を介した学校薬剤師のあり方の検討

Inoue Yutaka

井上 裕¹⁾

Takahashi Naosaburo

高橋直三郎²⁾

Miyake Emiko

三宅恵美子¹⁾

Koibuchi Hajime

鯉渕 肇²⁾

Murata Isamu

村田 勇¹⁾

Kanamoto Ikuo

金本 郁男¹⁾

Yamazaki Yasuyuki

山崎 康之²⁾

要 旨

学校薬剤師は地域に応じて活動内容が異なっており、学校との関わりについて認識の違いがある。そこで、学校薬剤師の活動の実態および学校への関わりに対する認識の違いについて意識調査を行った。埼玉県薬剤師会の協力を得て、無記名・自記式のアンケートを行い、272名から回答を得た。学校薬剤師の仕事への満足度は「満足である」と66%が回答し、「満足していない」との回答は34%であった。学校薬剤師の認識については、小学校22%、中学校10%、高等学校18%の生徒に「学校薬剤師は認識されていない」との回答であった。また、今後の学校薬剤師の活動に加えた方がよいと思うことについては「薬教育への参画」「食育に関すること」「定年制を取り入れる」などであった。以上のことから、学校薬剤師は薬物乱用防止教室や薬教育などの機会を利用し、学校教員とともに学校薬剤師の認識を高めるための工夫が期待される。

Key words : 学校薬剤師, 意識調査, 薬物乱用

諸 言

薬剤師は、薬剤師固有の任務を果たすことを国から付託された職能人である。その任務とは、「調剤」「医薬品の供給」、そして「その他薬事衛生」であり、その目的は「国民の健康な生活の確保」であると薬剤師法の第一条に明記されている。薬剤師は、医薬品や薬物に由来する危険性から国民を守るために、その職能を発揮する専門家であり、薬剤師倫理に根ざした、法令などを超える職能を発揮することが求められている¹⁾。

わが国では現在、地域薬剤師の活動の1つとして、調剤薬局における医薬品適正使用の推進²⁾、在宅医療³⁾、そして学校薬剤師⁴⁾がある。その中でも近年、学校薬剤師への注目が高まっており、その背景には教育法の改正がある⁵⁾。

学校薬剤師の活動として、教室の二酸化炭素濃度、

照度、給食室の環境、プールや飲料水などの定期的な環境衛生検査、薬物乱用防止教室の実施、学校保健委員会への出席、学校保健計画案の作成などがある^{6,7)}。学校薬剤師が学校で職能を発揮することによって、子どもたちが医薬品などに関する適切な知識をもち、生涯にわたり自己の健康管理を適切に行う能力を身に付けることができる⁵⁾。すなわち、薬育を実現することが可能である。

しかし、学校薬剤師はそれぞれの地域で活動しているため、学校薬剤師の活動に地域差が生じている可能性が考えられる。また、定期検査や薬物乱用防止教室活動のフィードバックにおいても、薬物乱用防止教室の感想文などが多いため⁸⁾、生徒の理解度を調査する機会が少ない⁴⁾。したがって、①学校薬剤師の活動は学校や生徒にとって有用なものとなっているか、②学校薬剤師の知識は統一されているか、③学校薬剤師の勤務体制は十分なものとなっているか、④学校と学校薬剤師の意見は一致しているか、などの問題点が考えら

1) 城西大学薬学部医薬品安全性学講座 2) 越谷市薬剤師会

表1 アンケート項目

学校薬剤師に関する調査

*10段階で回答する質問は、1を低い評価、10を高い評価としてください。

1. あなたはどちらに勤務していますか？
2. あなたは学校薬剤師ですか？
3. 学校薬剤師の職務に就いて何年目ですか？
4. 何校の学校を担当していますか？
5. 現在担当している学校は何年目ですか？
6. 現在担当している学校との信頼関係はどの程度ですか？
7. 学校薬剤師としてどのような活動を行っていますか？
8. 学校薬剤師の活動を行ううえで独自に工夫していることはありますか？
9. 学校薬剤師の仕事への満足度はどのくらいですか？
10. 学校薬剤師を継続したいと思いますか？
11. 学校薬剤師への興味はありますか？
12. 学校薬剤師は必要だと思いますか？
13. 世間一般で学校薬剤師はどれくらい知られていると思いますか？
14. 小学校の生徒に学校薬剤師はどれくらい知られていると思いますか？
15. 中学校の生徒に学校薬剤師はどれくらい知られていると思いますか？
16. 高等学校の生徒に学校薬剤師はどれくらい知られていると思いますか？
17. 今後、学校薬剤師の活動に加えた方がよいと思う事項はありますか、それはどのようなことですか？
18. 今後、学校薬剤師の発展として期待することは何ですか？

れる。

そこで本研究では、学校薬剤師の活動の実態および学校との関わりに対する認識の違いについて、埼玉県内の薬剤師を対象として、アンケートによる意識調査を実施したので報告する。

対象および方法

今回の調査研究は、平成25年2月と3月に行われた埼玉県薬剤師会主催の保険薬局講習会において実施した。アンケート調査は埼玉県薬剤師会の協力を得て、薬剤師273名を対象に意識調査を行った。回収率は99.6%(272/273(名))であった。本調査の目的と内容について十分に説明を行い、同意が得られた薬剤師本人に、無記名・自記式にて実施した。調査項目は全18問であり(表1)、質問項目6、9、13、14、15、16は10段階評価の回答とし、アナログスケール方式にて評価を行った。

結 果

質問1の“あなたはどちらに勤務していますか”の回

答結果を表2に示す。その結果、90%と薬局が最も多かった。

質問2の“あなたは学校薬剤師ですか”の結果、「はい」67%、「いいえ」33%であった。質問3、“学校薬剤師の職務に就いて何年目ですか”の回答結果を示す。その結果、最も多かったのは「0～5年」37%であり、次いで多かったのは「6～10年」16%、「31年以上」16%であった。質問4、“何校の学校を担当していますか”の回答結果を示す。その結果、最も多かったのは「2校」38%であった。質問5、“現在担当している学校は何年目ですか”の回答結果を示す。その結果、最も多かったのは「0～5年」41%であった(表2)。質問6、“現在担当している学校との信頼関係はどの程度ですか”の回答結果を示す。その結果、5以下の評価は17%(31/180名)、6以上の評価は83%(146/180名)であった(図1)。

学校薬剤師の活動に関する回答結果を表3に示す。質問7の“学校薬剤師としてどのような活動を行っていますか”の結果、「定期的な環境検査」「薬物乱用防止教室」「学校保健委員会への参加・講師」との回答がほぼ全員から得られた。少数意見として、「夏休みなどに行う学校の先生たちの研修での講演」「PTA向け

表2 学校薬剤師の勤務状況について

質問1 あなたはどちらに勤務していますか(n=272)	質問4 何校の学校を担当していますか(n=180)
薬 局 病院・診療所 その他	担当している学校数 割合%(n)
90%(n=177) 2%(n=4) 8%(n=16)	1校 36%(n=65)
質問2 あなたは学校薬剤師ですか(n=272)	2校 38%(n=69)
は い いいえ	3校 20%(n=35)
67%(n=183) 33%(n=89)	4校以上 6%(n=11)
質問3 学校薬剤師の職務に就いて何年目ですか(n=182)	質問5 現在担当している学校は何年目ですか(n=180)
年 数 割合%(n)	年 数 割合%(n)
0～5年 37%(n=68)	0～5年 41%(n=73)
6～10年 16%(n=30)	6～10年 17%(n=31)
11～15年 8%(n=14)	11～15年 9%(n=17)
16～20年 9%(n=16)	16～20年 6%(n=11)
21～25年 6%(n=10)	21～25年 6%(n=10)
26～30年 8%(n=15)	26～30年 10%(n=18)
31年～ 16%(n=29)	31年～ 11%(n=20)

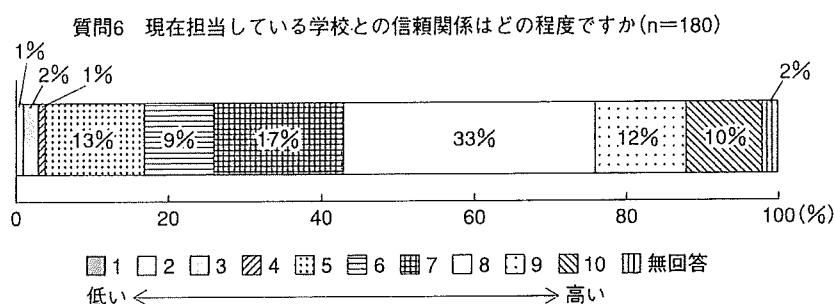


図1 学校との信頼関係

の食中毒、食物アレルギーの違いなどの勉強会」「学校評議委員会」「薬教育」「放射線検査」などがあつた。質問8、「学校薬剤師の活動を行ううえで独自に工夫していることはありますか」の結果、「校長先生や教員の方との連絡を密にとる」「体育祭や文化祭など、学校行事に積極的に参加する」などの信頼関係に関する意見、「情報収集」「保健委員会や地区薬剤師会での意見交換」などの学校薬剤師の活動関係に関する意見、その他では「顔が見える薬剤師」「実習で受け入れている薬学生を同行させて学校薬剤師の仕事を見学・体験などさせている」などがあつた。質問9、「学校薬剤師の仕事への満足度はどのくらいですか」の回答結果を示す。その結果、5以下の評価は34%(60/180)名、6以上の評価は66%(118/180名)であつた(図2)。

学校薬剤師としての意識に関する回答結果を表4に示す。質問10に、「学校薬剤師を継続したいと思いませんか」の結果、「継続したい」55%、「少し継続したい」

21%、「わからない」13%、「あまり継続したくない」8%、「継続したくない」2%であつた。質問11の「学校薬剤師への興味はありますか」の結果、「ある」「少しある」と回答したのは58%であつた。質問12、「学校薬剤師は必要だと思いますか」の回答結果を示す。その結果、「必要だと思う」「少し必要だと思う」と回答したのは78%であつた。

学校薬剤師の認知度に関する回答結果を図3、4に示す。「世間一般で学校薬剤師はどれくらい知られていると思いますか」の質問の結果、5以下の評価は90%、認知度は高いとする6以上の評価は8%であつた(質問13)。質問14、15、16に、小中高等学校の生徒への学校薬剤師の認知度についての回答結果を示す。その結果、小学校22%、中学校10%、高等学校18%の生徒が「学校薬剤師は認識していない」との回答をした。

今後の学校薬剤師の活動に関する回答結果を表5に示す。「今後、学校薬剤師の活動に加えた方がよいと

表3 学校薬剤師の活動について

質問7 学校薬剤師としてどのような活動を行っていますか(n=149)
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な環境検査 ・薬物乱用防止教室 ・学校保健委員会への参加・講師
少数意見として <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みなどに行う学校の先生たちの研修での講演 ・PTA向けの食中毒, 食物アレルギーの違いなどの勉強会 ・学校評議委員会 ・薬教室 ・放射線検査
質問8 学校薬剤師の活動を行ううえで独自に工夫していることはありますか(n=83)
信頼関係 <ul style="list-style-type: none"> ・校長先生や教員の方との連絡を密にとる ・体育祭や文化祭など, 学校行事に積極的に参加する ・学校への訪問回数をなるべく多くしようとしているなど 学校薬剤師の活動関係 <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集 ・保健委員会や地区薬剤師会での意見交換 ・各関係者の意見を十分に聞き, 時には実際に確認したうえで報告書に記載し, 改善を求めるようにしているなど その他 <ul style="list-style-type: none"> ・顔が見える薬剤師 ・実習で受け入れている薬学生を同行させて学校薬剤師の仕事を見学・体験などさせている ・環境衛生だけでなく薬の専門家として活動しているなど

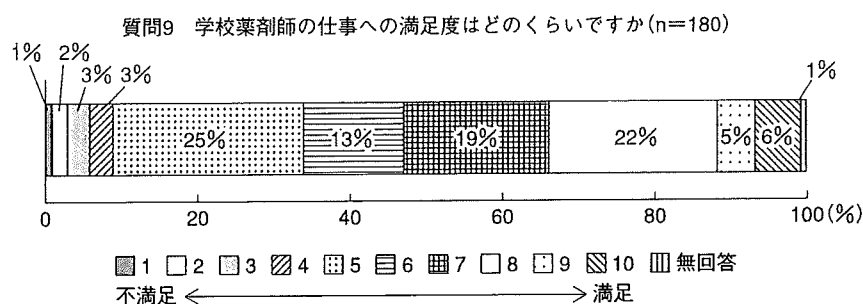


図2 学校薬剤師の仕事への満足度

思う事項はありますか。それはどのようなことですか"の質問の結果, 「薬教育への参画」「実験(薬について興味をもつ)」などの薬教育関係, 「食育に関すること」「健康の大切さを伝えたい」「消毒薬に関すること」などの健康教育関係, 「必要時放射線検査」などの日頃の定期検査以外の追加検査関係, 「定年制を取り入れる」「広報活動」などの学校薬剤師の勤務関係などであった(質問17)。質問18, "今後, 学校薬剤師の発展として期待することは何ですか"の回答結果を示す。その結果, 「薬教育への参画」「薬への理解を深める授業」などの薬教育関係, 「学校教育へのさらなる参加」

「薬剤師の活動の拡大化」などの教育への参加, 「認知度を上げる」「生徒, 教師, 保護者に学校薬剤師の活動内容を知ってもらおう」など, 学校薬剤師の認知度の向上, 「若い薬剤師さんが積極的に参加してくれること」「年齢制限を設ける」など, 学校薬剤師の勤務関係の改善であった(表5)。

考 察

学校薬剤師は日本独自の職業であり, 学校教育を支える医療人として, 他国に誇れる職業である⁹⁾。学校薬

表 4 学校薬剤師としての意識について

質問10 学校薬剤師を継続したいと思いますか(n=180)		質問12 学校薬剤師は必要だと思いますか(n=89)	
項 目	割合%(n)	項 目	割合%(n)
継続したい	55%(n=99)	必要だと思う	67%(n=60)
少し継続したい	21%(n=38)	少し必要だと思う	11%(n=10)
あまり継続したくない	8%(n=15)	あまり必要ない	6%(n=5)
継続したくない	2%(n=3)	必要ない	1%(n=1)
わからない	13%(n=24)	わからない	14%(n=12)
無回答	1%(n=1)	無回答	1%(n=1)
質問11 学校薬剤師への興味はありますか(n=180)			
項 目	割合%(n)		
あ る	23%(n=20)		
少しある	35%(n=31)		
あまりない	19%(n=17)		
な い	12%(n=11)		
わからない	8%(n=7)		
無回答	3%(n=3)		

質問13 世間一般で学校薬剤師はどれくらい知られていると思いますか(n=272)

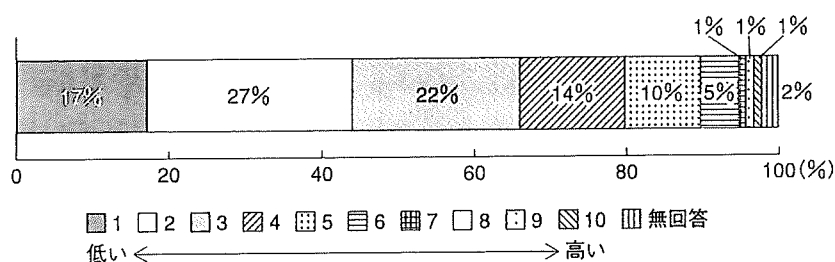


図 3 学校薬剤師の一般的な認知度

質問14~16 小学校、中学校、高等学校の生徒に学校薬剤師はどれくらい知られていると思いますか(n=272)

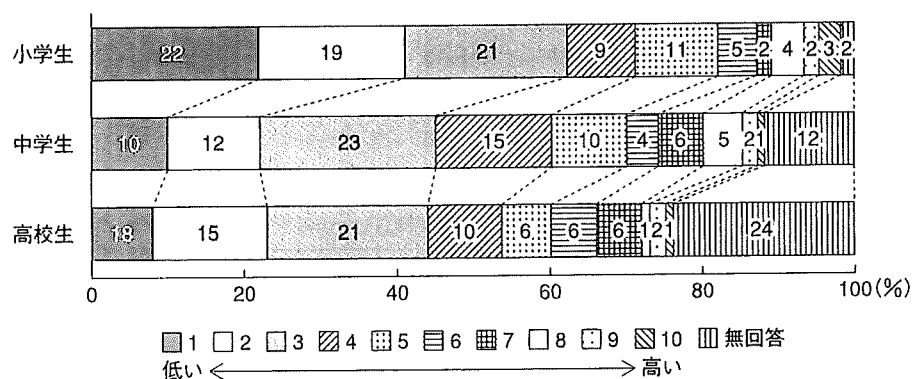


図 4 学校薬剤師に対する生徒の認知度

剤師の歴史は古く、昭和5年の児童の誤飲事故がきっかけとなり、学校における医薬品などの管理を指導する学校薬剤師の必要性が叫ばれた⁷⁾。

当時の学校の衛生環境は養護教諭に一任されており、

専門知識をもつ薬剤師によって医薬品などが管理されている環境はなかったため、学校薬剤師の全国的な普及の実現により、生徒にとってより安全な環境衛生を整えるべきだとされた¹⁰⁾。

表5 今後の学校薬剤師の活動について

質問17 今後、学校薬剤師の活動に加えた方がよいと思う事項はありますか、それはどのようなことですか(n=87)
<p>薬教育関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬教育への参画 ・実験(薬について興味をもつ) ・積極的な薬教室などの開催 <p>健康教育関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育に関すること ・健康の大切さを伝えたい ・消毒薬に関すること ・サプリメントなどの摂取に関すること <p>追加検査関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要時放射線検査 ・ドーピング検査 <p>学校薬剤師の勤務関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定年制を取り入れる ・広報活動 ・学校内の掲示板など生徒から見えるところに名前を掲示、医師、歯科医師も
質問18 今後、学校薬剤師の発展として期待することは何ですか(n=88)
<p>薬教育関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬教育への参画 ・薬への理解を深める授業 <p>教育への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育へのさらなる参加 ・薬剤師の活動の拡大化 ・学校薬剤師でなく学校の専属している薬剤師という立場になれればと思う <p>学校薬剤師の認知度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知度を上げる ・生徒、教師、保護者に学校薬剤師の活動内容を知ってもらう ・生徒に対する学校薬剤師の存在などの理解を促すことが必要 <p>学校薬剤師の勤務関係の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い薬剤師さんが積極的に参加してくれること ・年齢制限を設ける ・個人薬局の先生と違い、チェーン薬局の中でのこの業務を続けるには会社と職場と他スタッフの理解が必要

昭和22年に学校教育法施行規則が制定され、学校薬剤師が確立されることとなった⁷⁾。これにより、地域薬剤師としての職務は「町の薬剤師」に加え、「学校薬剤師」であることも期待されるようになった。また、昭和33年には指導方針として学校保健法が制定され、ガイドラインの全面改定につながった¹¹⁾。

近年では違法ドラッグの蔓延が著しく、「お香」「ハーブ」そして「入浴剤」などと称して外国から輸入さ

れるものも多く、若者による乱用が連日報道されている^{12, 13)}。乱用による被害は本人の健康被害に限らず、吸引後の自動車運転により引き起こされる事故や、異常行動による事件など、他者への危害が及んでおり、社会に与える影響は看過できないものとなっている¹⁴⁾。違法ドラッグから青少年を守り、規制のみならず違法ドラッグの危険性などについて、国民に正しい知識を付けさせることが重要であるとし¹⁵⁾、現在学校薬剤師

が取り組んでいる「ポスターなどによる啓発活動」や「薬物乱用防止教室」そして医薬品の正しい知識を付けるための「薬教室」の必要性が増している。このような活動は学校の協力のもとに行われることが多いが、学校での薬物乱用防止教育は、学校内のみにとどまらず、その知識と資源を利用して保護者・地域への啓発、連携に発展していくことが望ましいとされる中、学校教育を支えることで青少年を危険から守る役割を担うのが学校薬剤師である¹⁶⁾。

今回の調査において、学校薬剤師の活動について現状を調査した。学校薬剤師の勤務状態についてのアンケート結果から、「0～5年」が37%、「6～10年」「31年以上」がともに16%であった。この結果から、現在学校薬剤師として勤務している薬剤師の約2割は年齢層が高いと考えられる。また、学校薬剤師として3校以上を担当している割合が26%であり、11年以上同じ学校を担当している割合が42%であった(表2)ことから、同じ担当学校を受け持つことで、学校教育を支える信頼関係が深まる反面、デメリットとして、若い学校薬剤師の割合の低下や担当校負担による質の低下など、再検討が必要と考えられる。質問6での学校との信頼関係については、17%の学校薬剤師が低いと回答していることから、学校薬剤師が非常勤であるため、教職員や生徒とのコミュニケーションに不安があるものと考えられる。学校薬剤師の活動において、ほぼ全員の学校薬剤師は、基本的な検査や薬物乱用防止教室などを実施しており、その他の活動のために密な情報交換を学校側と行い、良好な関係を模索しようと努力していることがうかがえる。

一方で、学校薬剤師の仕事に満足しているかという点、34%は満足しておらず(図2)、学校薬剤師を継続したいと回答したのは76%であった。学校薬剤師に興味があると回答したのは58%であり、学校薬剤師を必要だと思うと回答したのは78%であった。学校薬剤師に従事している20～30%の薬剤師は、義務的に学校薬剤師の職務を行っているのであって、生徒や学校教育への薬育のための向上心が低下しているのではないかと考えられる。このことから、学校薬剤師の活動は薬剤師の間でも知られておらず、同じ薬剤師であっても学校薬剤師の活動を把握していない状況があると考えられる。この改善点としては、まず学校薬剤師について、薬剤師を対象に勉強会や必要性を呼びかける運動などの認知度を上げる活動が必要であり、薬剤師の立場から、薬の専門家としての学校薬剤師の必要性を謳

えるようになる必要があると考える。

学校薬剤師の認知度について、全体として評価が低く、90%の薬剤師が、学校薬剤師の認知度の低迷を危惧していることが考えられる(図3、4)。これを改善するためにも地域貢献の一貫として、学校行事へ参加し、生徒と触れ合う機会を増やすことや、地域での薬育講演会で薬剤師の職能の話を折り込む工夫などをして、対応策を講じる必要があるものと考えられる。

最後に、学校薬剤師の活動は、薬教育への参画、健康教育、そして学校薬剤師の勤務体制について重視していることが見出された。平成20年に学校保健法は、学校保健安全法へ改定され、学校薬剤師の立場が注目を浴び、薬教育を通じた薬育が重要視されている⁵⁾。薬の正しい使い方などを教育する薬教育や、薬物の危険性を理解する薬物乱用防止教室、そして、近年健康食品やサプリメント市場の大幅な拡大による使用者の低年齢化のための健康教育などは、専門の知識をもった学校薬剤師が学校と協力して教育活動を行っていく必要がある¹⁷⁾。質問18の結果より、このような問題の対策案を早急に実行したいという現場の声は現場からの適切な声であり、実現すべきものである。

今回の調査結果より、学校薬剤師以外の薬剤師にとって、同じ薬剤師でありながらも、学校薬剤師は異業種であることがわかった。薬剤師間で学校薬剤師の必要性を重要視し、勉強会などへの積極的な参加が求められる。また、学校薬剤師の勤務体制において、勤務状況に応じて勤務体制に差があり、チェーン薬局の薬剤師にとっては学校薬剤師の兼任が負担となる現状があることから、学校に訪問する際の交通費を支給することや、薬局や病院業務との兼ね合いを図るなどして、学校薬剤師の勤務体制を整えることが先決であるとし、若い薬剤師が積極的に参加できる環境を整えるべきだと考える。

今後、学校薬剤師の活動を世間に広めるためには、学校薬剤師の重要性を学校側も理解することと、学校薬剤師の勤務体制を整えることが必要であると考えられる。学校薬剤師による薬物乱用防止教室や薬教育などは子どもたちが必要な知識を吸収できるよい機会であるため、この機会を保護者や学校教員とも共有できるように工夫が期待される。今回は埼玉県内の一部の薬剤師に限った調査を行ったが、子どもたちと学校薬剤師の距離が縮まるよう、学校薬剤師活動の意識調査を続行していく予定である。

文 献

- 1) 児玉 孝：医薬品安全と薬剤師職能。月刊薬事 2009；51：1725-1729.
- 2) 佐藤英治，安楽 誠，岡村信幸ほか：福山市における地域住民と地域薬剤師のセルフメディケーション向上に関するニーズ調査。薬学雑誌 2011；131：1117-1125.
- 3) 赤井那実香，橋本大輔，藤田知子ほか：在宅緩和ケアの充実化に向けた薬剤師による地域住民に対する医療用麻薬の啓発活動の提案と実践。薬学雑誌 2010；130：605-612.
- 4) 寺町ひとみ，太田拓希，香田由美ほか：小・中・高校生の「医薬品の正しい使い方」に関する知識・意識および指導実施状況。医療薬学 2012；38：767-779.
- 5) 山田純一，高柳理早，横山晴子ほか：中学生を対象とした医薬品適正使用に関する意識調査と学校薬剤師による教育の効果。薬学雑誌 2012；132：215-224.
- 6) 中川尚美，濱邊和歌子，徳山尚吾：災害時における学校薬剤師の役割とその必要性—阪神淡路大震災からの教訓を踏まえて—。薬学雑誌 2008；128：1285-1291.
- 7) 田中俊昭：学校薬剤師の歴史と職務。小児科臨床 2011；64：1269-1278.
- 8) 松本有右：新しい学校薬剤師の役割。薬剤学 2006；66：319-322.
- 9) Miyamoto N, Takahashi F, Fukushima N：History of the school pharmacist system in Japan. 薬史学雑誌 2000；35：224-226.
- 10) 田中俊昭：学校薬剤師の役割—現状及び環境検査への対応—。薬剤学 2006；66：398-400.
- 11) 澤村良二：学校薬剤師の新しい役割。ファルマシア 1997；33：1352.
- 12) 田中俊昭，谷口廣光：学校薬剤師の役割—薬物乱用への対応—。薬剤学 2006；66：401-404.
- 13) 阿部哲也：東京都における違法ドラッグの現状と今後の課題。薬学雑誌 2013；133：3-5.
- 14) 山田実貴人，児玉暁人，斎藤史郎ほか：脱法ハーブによる意識障害に対して高気圧酸素治療を行った1例。日本高気圧環境・潜水医学会誌 2012；47：196.
- 15) 宮本法子：キャンパスを出た「小学生に対する薬教育」。薬学図書館 2011；56：210-215.
- 16) 大久保圭策：有効な薬物乱用防止教育の条件を考える。日本アルコール関連問題会誌 2004；6：19-23.
- 17) 安楽 誠，富田久夫，佐藤英治ほか：学校薬剤師を介した小・中・高校生の一般用医薬品・健康食品の使用実態調査。薬学雑誌 2011；131：835-842.

Examination of the Existence for the School Pharmacist Through Survey on the Health Awareness

Yutaka Inoue¹⁾, Emiko Miyake¹⁾, Isamu Murata¹⁾,
Yasuyuki Yamazaki²⁾, Naosaburo Takahashi²⁾, Hajime Koibuchi²⁾,
and Ikuro Kanamoto¹⁾

- 1) Laboratory of Drug Safety Management, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Josai University
2) Koshigayashi Pharmaceutical Association

The school pharmacist differs in the contents of activity according to the area, and has the difference in recognition about relationship with a school. Then, the questionnaire was enforced about the difference in the consciousness in the actual condition of the activity of a school pharmacist, and the relationship with a school. By cooperation of Saitama Pharmaceutical Association, the bearer form questionnaire survey was conducted and the reply was obtained from 272 pharmacists. 66% answered "It is satisfactory" about the degree of satisfaction to a school pharmacist's work, and 34% was the reply "it is not satisfied." About a school pharmacist's recognition, it was the reply "the school pharmacist is not well known" in the student of 22% of the elementary school, 10% of the junior high school, and 18% of the high school. Moreover, about considering that it is better to add to a future school pharmacist's work, it was "participation to medicine education", "being related with food education", and "introducing of mandatory retirement" that. From these results, a school pharmacist uses those opportunities, such as a drug abuse prevention class and medicine education, and a device for a school teacher to raise a school pharmacist's recognition is expected.

Key words : school pharmacist, questionnaire, drug abuse